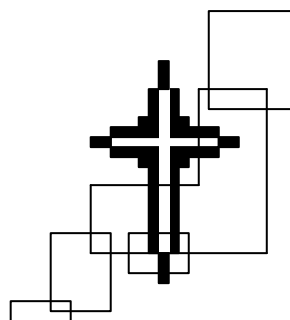


日本のための とりなし

わが国のために祈りましょう
ニュースレター8月号
2003年8月3日発行



日本のためのとりなしの会
事務局：〒228-0802
相模原市上鶴間6-1-17 皆川方
TEL042-747-5703
FAX042-746-2119
http://www.Christ-ch.or.jp/
*振替：00270-7-6421

委員長：皆川 尚一(神奈川県)
委員：友納 徳治(福岡県)
手束 正昭(兵庫県)
林田 金弥(神奈川県)
行澤 一人(大阪府)
久保 有政(埼玉県)
釘宮 義人(大分県)

長谷川 乃武男(東京都)
協力委員：
町田 誠(千葉県)
中原 耕平(千葉県)

日本宣教論序説(第7回)

日本に伝来したキリスト教
〔第5波〕欧米キリスト教の渡来 の続き
(1859年~1945年)
ヨハネ皆川尚一

(3) 第3期(1891-1990年)

前10年の発展期に続くこの10年間は、日本のキリスト教界の沈滞期です。憲法で信教の自由が打ち出されたにもかかわらず、教勢は引き潮状態となりました。信徒数も31,000名から36,000名に少し増加しただけでした。ミッション・スクールも生徒数が減少して閉鎖する学校が続出しました。この教勢衰微の原因は外的なものと内的なものに分かれます。

外的要因としては、国家主義勢力による圧迫ですが、これはあまり過大評価しないほうが良いでしょう。なぜなら迫害によって返って教勢が伸びたという実例が過去の教会史には少なからず見られるからです。

内的原因...このほうが恐ろしい。

A) 新神学の侵入

これまで宣教師によって伝えられた正統的キリスト教を受け入れ、聖霊の力によってダイナミックに伸展してきた日本のキリスト教界に「新神学」なるものが入って来たのは、1885年(明治18年)来日のW.シュピンナー、1887

年(明治20年)来日のO.シュミーデルによるのです。彼らはドイツ・ユニバーサリスト教会の宣教師でした。また、この他米国ユニテリアン派の宣教師 A.M.ナップも来日しました。

シュピンナーたちはドイツ・チュービンゲン学派の唱えた自由主義・合理主義的キリスト教を説きました。即ち、聖書の中の奇跡や十字架の贖罪を非科学的迷信とみなし、すべてを合理的に解釈することによって聖書が神の言ではなく人間の言であることを主張したのです。これによってキリスト教界に多大の悪影響が広がり、小崎弘道、海老名弾正、横井時雄、金森通倫らの有名な指導者たちが自由主義(リベラリズム)に転向しました。

ユニバーサリストは、東京・京都・千葉などに伝道し、諸教派の中へと浸透して信仰をゆるがせ、聖書に対する信頼を低下させました。しかし、この派の勢力はあまり振るわず、1933年(昭和8年)の同派の教会数5つ、日本人牧師7名、宣教師2名、信徒数285名でした。聖書の権威が尊ばれないところには真の救いは成り立たないからです。

B) この新神学の反面教師的貢献は、大内三郎氏によれば5つあります。

- 1) キリスト教はただの有神論ではなく、神にして人なるイエス・キリストを通じての啓示がその中核であることを確認させたこと。
- 2) 歴史批評学を学ぶことにより聖書研究が

進み、イエスの歴史的実在たることがますます確証されたこと。

3) 聖書におけるキリスト教の本質がイエス・キリストの福音であることが明らかになったこと。

4) キリスト教は、博愛主義や道徳の教えではなく、「救いの福音」であること。

5) 宣教師の手から日本の神学を解放させる動機を提出したこと。

この時期、日本のキリスト教界には5つの潮流がありました。

1) 準正統主義... 植村正久に代表される日本基督教会で極端な福音派の逐語靈感説(バーバルインスピレーション)を否定するがあくまでも正統的福音主義を奉ずるもの。

2) 自由主義(リベラリズム)... 海老名弾正に代表されるもの(日本組合基督教会)。キリストの神性や贖罪を認めず、聖書の批判的研究と合理的解釈をとる。

3) 無教会的聖書主義... 内村鑑三に代表されるもの。内村は自由主義を排し、正統信仰による聖書主義をもって個人の靈魂の救いを目指したが、その追隨者たちは次第に批判的聖書研究を取り入れて行くようになる。

4) 日本のキリスト教... 自由主義から生じたもので、神道的キリスト教(海老名弾正)、仏教的キリスト教(巖本善治、戸川安)、儒教的キリスト教(松村介石)等があります。

5) キリスト教社会運動... 石井十次(1865-1914)の岡山孤児院、小橋勝之助(1863-1893)の孤児院「博愛者」、その他刑務所改良、感化院、白雉教育、救癩事業、婦人矯風運動、救世軍などがみなこの時期に始まりました。

(4) 第4期(1900-1912)

1) キリスト教界のリバイバル

20世紀の世界的リバイバルは、日本から始まったと言われます。明治5年の横浜キリスト公会誕生の時以来、3度目のリバイバルの波が沈滞したキリスト教界に押し寄せてきました。

その準備段階として、イギリス国教会司祭サー・パークレー・F・バックストンは超教派の宣教師として日本人の救霊の幻と情熱に燃

えて来日し、松江で伝道を開始しました(1890)。さらにカリフォルニアのリバイバルで聖霊を受けた笹尾鉄三郎、河辺貞吉、秋山由五郎、松野菊太郎、御牧碩太郎らが帰国して「小さき群」を結成し、東京・大阪・東北地方・関西地方などに盛んな伝道活動を始めて、バックストンの赤山塾(せきさんじゅく)で訓練を受けるようになり、そこへ中田重治が1898年にアメリカから帰国して合流しました。

1900年にアメリカからジョン・R・モット博士が来日して、宣教の急務を訴えたのに対応して、小崎弘道を代表とする大挙伝道が日本の83%の教会の協力で始まりました。これによって全国の教会の教勢は著しく進展したのです。これは福音同盟会を中心とした全国的規模のリバイバルでありました。中田重治は小さな群やカウマン宣教師夫婦らと共に東京神田神保町に出て「中央伝道館」を作り、大衆伝道の拠点とし、また、伝道者養成の機関としました。

2) キリスト教社会主義

1901年、安部磯雄、西川光次郎、木下尚江、河上清らのクリスチャンと幸徳秋水らが発起人となって「社会民主党」を結成しました。しかし、当局は直ちにこれを解散させたので、安部を会長とする「社会主義協会」をユニテリアン協会内に置きました。又、この年、「万朝報」(よろずちょうほう)の黒岩涙香、内村鑑三、幸徳秋水、堺利彦らが発起人となって「理想団」を結成しました。これは一種の反戦連合団体でしたが、主幹の黒岩が主戦論に転じたので、1903年に解散しました。やがて社会主義グループはキリスト教徒と唯物論者に分かれ、主導権は唯物論者の方に移って行きました。幸徳秋水は「基督抹殺論」を著しましたが、いわゆる「大逆事件」で捕らえられ、処刑されます。キリスト教社会主義者には「自由主義」(リベラル)に属するものが多かったといえます。足尾銅山鉍毒事件解決のために戦った代議士田中正造(1841-1913)は、1900年頃キリスト教に接して入信し、献身的に被害者救済に尽くしましたが、1913年に病死しました。

4. 大正時代のキリスト教(1912-1926)

大正時代はキリスト教の国際的時代だといえることが出来ます。日本国内においては、大正リベラリズムとデモクラシー(民主主義)が強調されましたが、キリスト教界でも自由と平等が尊ばれました。

(1) 全国協同伝道(1914-1917)

1910年のエジンバラ世界宣教大会の決議に基づいて、1913年(大正2)にジョン・R・モット博士が来日し、日本全国の諸教会が協同して伝道する機運が高まりました。1914年1月全国を関東・関西の2部に分け、東は植村正久、西は宮川経輝を各部長とし、教職会、連朝祈禱会、信徒大会、SS生徒大会、大祈禱会、学生伝道、連合礼拝、路傍伝道、天幕伝道、婦人大会、社会事業大会、商工業者大会、教育家大会、自動車伝道など、あらゆる方法が用いられ、明治の大挙伝道よりも規模が大きく、各教派の大物牧師たち信者たちが奉仕しました。日本だけでなく朝鮮、満州、台湾、支那の298都市で集会4,788回、聴衆777,119人、決心者27,350人でありました。

(2) 世界的大変動

一方、世界ではこの時期に大きな変動を迎えます。1914年(大正3)年に第一次世界大戦が勃発し、日本もドイツに対して宣戦布告を行いました。さらに1917(大正6)年にロシア革命が起こり、世界で初めて共産主義国家がロシアに生まれました。1918年(大正7)年には米騒動から経済恐慌、不況倒産が相次ぎました。1923(大正12)年には関東大震災が起こり、社会的・国際的な危機意識の中から、キリスト再臨運動が中田重治、内村鑑三、木村清松らによって出現しました。

(3) キリスト再臨運動

内村鑑三は、初めの頃は聖書とダーウィンの進化論をあわせて信じました。即ち、生物の進化と共に人類社会も進化してキリスト教の普及により人類は戦争をしなくなるだろうと説いていました。しかし、1914年に始まった第一次世界大戦では、キリスト教国が互いに戦いました。「せめてアメリカは加わらないで欲しい」と願ったにもかかわらず、アメリカも参戦しました。これを見て内村は、福音

によって人類が進化し、世界平和が来るという希望を失い、キリストの再臨による神の国の実現について熱心に研究を始めました。1917年9月内村の家が隣家の失火によって類焼の危険にさらされたとき、中田重治が聖書学院の修養生を率いて駆けつけ消火につとめたおかげで火は消し止められました。これを機に内村と中田は協力してキリスト再臨運動を盛り上げることになりました。1918(大正7)年1月6日より再臨運動の火蓋(ひぶた)が切られ、関東、関西、四国、九州までも広がり、毎回1,500~2,000人の会衆が集まりました。しかし、この運動の提唱者の間に、幻の解釈、数字の計算をめぐって立場の違いが生じ、特に中田重治の軽率な発言や日古同祖論、イスラエルの救いが日本民族の救いとなるという主張をめぐって分裂が生じ、2年後には内村が脱退し、中田派は「きよめ教会」をつくり、キリストの空中再臨派(米田豊、小原十三司ら)は「日本聖教会」をつくりました。

(4) 大正のリバイバル(1919-21年)

大正のリバイバルの火付け役として用いられたのは、柘植不知人(つげふじと)です。彼は1916年教会内部の問題に悩み神戸の山に登って祈っていると天から光を受けて罪の悔い改めと潔めを受け、歓喜に満たされました。これが発端となり、彼が招かれて説教すると会衆が泣いて悔い改めて救われるようになりしました。その有様は、会場の右から左へと嵐になぎたおされる麦畑のように人々がベンチから転げ落ちて泣き叫び、又、歓喜に踊るのでした。柘植は日本各地の教会から招かれて東北から九州まで巡回して歩き、1921年には台湾に招かれて大リバイバルを起こしました。彼は日本の教会・クリスチャンの信仰が知的レベルに留まっているため靈魂の救いに至らないことを洞察し、聖霊の火による潔めと新生をもたらすための基督伝道隊を設立しました。伝道隊の働きは伝道、伝道者の養生、そして病のいやしです。そのために伝道館、活水学院、及び神癒館を建てました。修養生も増え、第一期生30名、第二期生60名、1927(昭和2)年には175名の献身者が与えられました。そして、柘植不知人は同年3月

18日に帰天したのです。

(5) 神の国運動

賀川豊彦(1888-1960)の神の国運動は、キリスト教界の中で独特の成果を上げた働きでした。賀川は神戸に生まれ、宣教師マヤスに導かれて受洗、明治学院神学部から神戸神学校に転じて貧民窟伝道を始めました。彼は神奉仕と社会奉仕は一つだと考えました。1914(大正3)年に米国プリンストン大学に留学し、キリスト教社会主義を学びます。帰国後「人間苦と人間建築」という本を出版。この本は貧困が物質的欠乏だけでなく、人格をも破壊すること。その人格の回復すなわち人間建築のために社会を改革せねばならないと説きました。この考えに基づいて、彼は大正時代に伝道、慈善事業、労働運動、農民学校、セツルメント、協同組合、労働学校等を起こして、あらゆる面でも活躍しました。

賀川は教会と社会を区別し、教会の福音宣教と教会形成を重んじ、自ら日本基督教会松沢教会の牧会伝道に仕えました。又、社会に対する働きにおいては、唯物主義のマルキシズムではなく、キリストの贖罪愛を基礎として取り組みました。やがて1929(昭和4)年には、日本宣教70周年にあたり、賀川は「神の国運動」を宣言し、社会革命によらず、精神革命によって神の国を打ちたてようと叫んで、日本、支那、満州、アメリカ、及びヨーロッパに大きな影響を与えて行きました。賀川は日本国内でよりも海外で世界的に「日本のガンジー」と呼ばれて尊敬されたのです。

5. 昭和前期のキリスト教(1927-1945)

(1) 共産主義者の抬頭

この時期は日本が国家主義にいちじるしく傾斜して行くことになる時代です。第一次世界大戦終了後、ニューヨークの株式大暴落によって世界恐慌が起こり、日本もひどい経済的不況に見舞われます。こうした状況の中で、ロシア革命の影響を受けた共産主義者たちが日本国内において活発な行動を展開しました。即ち日本共産党は荒畑寒村、堺利彦、山川均らを執行部として創立され、最初の党首は100人余りでした。彼らは革命運動の国際組

織「共産主義インターナショナル」(コミンテルン)に所属し、「君主制廃止、貴族院廃止、18歳以上の男女に普通選挙権を与えよ、労働者と労働者政党の団結の自由、出版・集会・ストライキの自由、天皇の軍隊・警察・憲兵・秘密警察の廃止」等を要求しました。これに対して政府は1925年4月に治安維持法を制定し、1928年1,600人の党员及び支持者を全国一斉検挙し、1929年1,000人を検挙して大弾圧を加えました。当時の日本国民は天皇の存在を否定し廃止しようとする共産主義に対する反発が一般的に強くあったので、共産党员や同調者の数は少なく、この大弾圧の結果、1945年の終戦に至るまでその勢力は衰退していきました。

(2) 国家社会主義者の抬頭

これに反して、新たに国家社会主義(ファシズム)が世界的に抬頭して来ました。ドイツのヒトラーはナチス党を率い、イタリアのムッソリーニはファシスト党を率いて国家社会主義によって資本主義による経済不況から脱出しようとしていました。また、アメリカもルーズベルトがニューディール政策という社会主義を取り入れ、イギリスは英国支配下の9カ国による経済ブロックを作って不況から脱出を計りました。こうした世界の流れの中で、日本にも天皇を戴く右翼の社会主義が抬頭しました。その代表者北一輝(きた いっき)の主著は「国体論及び純正社会主義」であり、日本の左翼思想家たちも諸手を挙げて賛成しました。1931(昭和6)年3月、右翼が結集して「全日本愛国者共同闘争協議会」という連合体を作ります。その時の綱領は以下の通りです。

- 1) われらは亡国政治を覆滅し、天皇親政の実現を期す。
- 2) われらは産業大権の確立により、資本主義の打倒を期す。
- 3) われらは国内の階級対立を克服し、国威の世界的発揚を期す。

これは天皇の権威を笠に著て軍事・産業の独裁政治を実現し、貧富の差を無くすのだという主張です。

(3) 軍部の抬頭

こうした右翼の国家社会主義に同調した軍

人たちによるクーデター未遂事件が1931(昭和6)~1936(昭和11)年にかけて度々起こされました。海軍青年仕官らによる「5・15事件」(1932年5月)で犬養首相が殺されました。又、陸軍青年将校らによる「2・26事件」(1936年2月)で高橋是清蔵相、斎藤実内相が殺されました。これらのクーデターはいずれも失敗に終わりましたが、内閣や議会の権威よりも天皇の統帥権(とうすいけん)に名を籍(か)りた軍部(特に参謀本部)の統帥権が全てに優先することになって行きます。なぜこんなことが起こったのかという原因は3つあります。

- 1) 大日本帝国憲法の中に「首相」や「内閣」の規定が無かったこと。
- 2) この憲法の中に「陸海軍は天皇に直属する」と規定されていたこと。
- 3) 天皇の統帥権を執行する責任が「参謀本部」にあたえられていたこと。

(4) 戦争への道

1931年に満州事変が起こり、1932年に満州帝国が建設され、1937年に支那事変が起こり、日本は泥沼のような戦争へと引き込まれて行くのですが、これを「日本共産党の唯物史観」や戦後の「東京裁判史観」のように「侵略戦争」の一語で割り切ることは適切ではないと思います。もし一語で言わなければならないとするならば、「自衛戦争」であったと見る方が適切でしょう。米国(ルーズベルト)は1904年「オレンジ計画」(ORANGE PLANE)という日本殲滅のための長期戦略を立てました。そして巧みに日英同盟を解消させ(1912年)、絶対的排日移民法を米国議会で成立させ(1924年)、日本を国際的に孤立させるために手を打って行きます。先に述べたように、英国も経済ブロックを作って日本を締め出したので、日本は移民先をアジア大陸の満州に求めるほかなくなりました。大陸では共産主義ソビエト政府がシベリアから南下して朝鮮半島を窺い、1931年にはコミンテルンにより江西省に中華ソビエト政府が成立するというように、日本は北方からの脅威を受けはじめていました。清国は既に1912年に滅亡して内

戦状態が続き、白人諸外国は支那大陸を侵略して分割しようと各革命勢力を支援する形で触手を伸ばしていました。そういう情勢の中で、日本はかねて日本に亡命していた孫文の革命運動を支援しましたが、これは侵略のためではなく、白人の支配から解放された中国人の独立国を建てるためでした。孫文の死(1925年)後、日本は汪精衛の南京政府を支援します。又、日本は清国の宣統帝であった溥儀(ふぎ)が保護を日本公使館に求めて来たので彼を保護し、溥儀の属する女真族の故郷である満州に帝国を興して皇帝としたのです。それが彼の意志でした。(ちなみに、溥儀は終戦後ソビエトに抑留され、東京裁判で証言したときには、「満州国建国は自分の意志でなく、日本軍に強いられて皇帝になったのだ」と偽証を行いました。)

1937(昭和12)年7月7日夜10時、日本人居留民保護のために北京郊外の盧溝橋(ろこうきょう)に駐屯していた日本軍一個中隊に対して支那側から発砲事件が起こりました。これは日本軍を内戦に巻き込む支那共産軍の謀略であったのです。これが発端となって支那事変が起こり、米軍の支援を得た蒋介石の国民政府軍との間に8年に及ぶ泥沼の戦争が行われて行きました。又、前に述べた汪精衛の南京政府は1940年に成立しました。

一方、米国は、米国(A)、英国(B)、支那(C)、オランダ(D)と連合して、日本に対するABCD包囲陣を敷き、石油等の鉱物資源を完全に遮断したのです。そこで日本は自衛のため、及びアジア民族の白人支配からの解放と大東亜共栄圏の建設を目的とする大東亜戦争を開始する宣戦布告を1941年12月8日に行いました。これが侵略戦争を美化するための口実でなかった証拠は、1943(昭和18)年11月に東京の帝国議会で開催された「大東亜会議」です。この会議には、日本(東条英機)、支那(汪精衛)、タイ(ワンワイ殿下)満州(張景恵)、フィリピン(ラウレル)、ビルマ(バー・モウ)、インド(チャンドラー・ボース)など東アジア七つの国の代表が独立国建設と大東亜共栄圏の建設を誓う大演説を行いました。そしてその結果はどうだったのでしょうか。日本は精魂限り戦って

敗れましたけれども、アジア諸国は皆独立を果たしたのです。わたしは日本が敗れると分かっていたとしても国民の総力を挙げて戦ったのは良いことであったと考えています。なぜなら脅迫に屈して奴隷になるよりは、死力を尽くして戦って敗れた方が戦後復興の力になるからです。論より証拠です。戦後の日本は奇跡の復興をなしとげて来たではありませんか。

(5) 昭和初期のキリスト教リバイバル

さて、このような歴史の流れの中でキリスト教界はどのような歩みをして来たでしょうか。先ず、第一に取り上げたいのは、昭和初期のキリスト教のリバイバルです。

このリバイバルは1930(昭和5)年、日本ホーリネス教団の東京聖書学院で起こりました。中田重治、一宮政吉が指導者でした。5月19日の夕、約70名の男女生徒がリバイバルを求めて祈っていると聖霊の火が激しく降りました。学生たちも教授たちも広いカウマン・ホールの中を大声で讃美しながら踊りまわり、米田豊は踊りすぎてアキレス腱を切ったし、ついにはホールの床板が抜けてしまいました。その時歌われた歌が聖歌576番「聖霊きたれり」でした。5月23日には教職者全員を祈祷会に招集し、この火は全国に拡大しました。6月8日にはペンテコステ大会が開かれ、日本人だけでなく、英・米・ロシア・ブラジル・台湾・アイヌ族の人々も加わりオーラル・ロバーツも証ししました。やがて関西にも飛び火し、神戸市の日本伝道隊聖書学舎や大阪メソジスト教会、ナザレン教会にも波及しました。10月23日東京聖書学院のリバイバル大会には3,000人が集い、「再臨準備リバイバル同盟」が結成されました。その結果、日本ホーリネス教会では、同年の受洗者4,311人、会員数は12,046人となり、日本の大教会の仲間入りをしました。しかし、なぜが分かりませんが、このリバイバルの火は1933(昭和8)年の夏の聖会を頂点として、次第に冷却して行ったのです。

(6) 有名な指導者たちの死

この時期には、明治・大正時代の有名な教会指導者たちが次々と死んで行きました。植村

正久、元田作之進、内村鑑三、海老名弾正、新渡戸稲造(にとべいなぞう)、宮川経輝(つねてる)、小崎弘道(こうどう)、山室軍平(やまむろ ぐんぺい)等の人々です。

(7) SCM運動(STUDENT CHRISTIAN MOVEMENT)が起こる

これは共産主義に刺激され、「キリスト教が教会の中に閉じこもってはいけない。社会を改革する力となるべきだ」というもので、社会的キリスト教と呼ばれました。リーダーは中島重、榊原巖、清水義樹らでした。

(8) 福音的キリスト教

高倉徳太郎(1885-1934)は福音を社会改革の力としてではなく十字架の贖罪による自我からの解放であると強調し、日本のキリスト教界に大きな影響を与えました。

(9) 日本キリスト教団の成立・その他

日本政府は宗教団体法による「宗教の新体制運動」を提唱し、これに応じてプロテスタント35教派は合同して「日本基督教団」を1941(昭和16)年6月25日に設立しました。これは政府がキリスト教界を統制しやすくするための政策でしたから、信仰・職制の一致がないのに合同はできないとする一部の抵抗が強く出ましたが「お国のために打って一丸となれ」という信徒の大勢に押されて合同が成立したのです。又、政府の強制も神の摂理かもしれないといふかねてからの合同論者の声も説得力があったと言えるでしょう。日本基督教団の統理は富田満でした。

又、カトリック教会は、1941年5月3日、日本天主公教教団として認可され、統理は大司教土井辰雄でした。

聖公会の三分の一は日本基督教団に加わり、三分の二は合同しませんでした。

(10) 政府による統制と弾圧

政府はキリスト教会に国家の戦時体制への協力を求め、日曜日の礼拝前に国民儀礼と称する宮城遥拝を求めました。これは天皇のおられる宮城の方角を向いて、上半身を90度にまげて最敬礼をすることです。礼拝の時には必ず特高刑事が監視しており、説教の内容

もチェックして納得できないところがあれば礼拝終了後に牧師に問いただしました。教会員名簿は全員警察のブラックリストにのせられました。男子の牧師や信徒は次々と軍隊に招集されて行き、教勢は下降の一途をたどって行きました。それでもなお熱心な信徒たちは教会を守り、草の根の伝道を絶やすことがありませんでした。政府は大教団に対する弾圧はゆるやかにする代わりに、小グループのクリスチャンに対しては徹底した厳しい弾圧を加えて、抵抗するクリスチャンへの「みせしめ」としました。そのスケープゴート(いけにえの山羊)として選ばれたのは

1) 無教会主義グループ

1937年東大教授矢内原忠雄は日本の戦争や植民地政策を批判して東大教授の地位から追放されました。これはその一例です。

2) 救世軍

1940年憲兵隊は救世軍の「軍」という名称を改め「救世団」とすることを要求したので救世軍は解散して救世団となり、1941年に日本基督教団に加わりました。

3) 日本ホーリネス教会系(日本聖教会、きよめ教会、東洋宣教会)

1942年、ホーリネス教会系の牧師96名がキリスト再臨信仰のゆえに逮捕・投獄され、ホーリネス教会は解散させられました。獄死した人々には、菅野鋭(すげのとし)、小出朋治(こいでともはる)、小山宗祐(そうすけ)、斎藤保太郎(さいとうやすたろう)、辻啓蔵(けいぞう)、竹入高(たけいりたかし)等であり殉教者の列に加えられました。解散された274教会の牧師や信徒は、最寄の日本基督教団の教会と合流して信仰の交わりを共にして行ったのです。

これまで述べてきたように、日本基督教団や日本天主教教団は、教団として大日本帝国の自衛戦争と東洋平和・大東亜共栄圏の建設といったビジョンを神からのものとして受けとめてお国のために忠誠を尽くすことがクリスチャンの使命であるとして協力する姿勢をとりました。宮城遥拝にしても天皇を神として拝むのではないし、政府は福音宣教を止めると要求してはいないのだから、国民として出来る限り協力するのは当然であるとういのが教団の公式見解でありました。しかし、個々のクリスチャンには、「殺すなかれ」「汝の敵をも愛せよ」という神の戒めを守るために兵役を拒否した人もいれば、銃を天に向けて撃つと言って戦場に行った人もいました。しかし、日本を守るために戦争は必要悪だからやむを得ないと割り切った大多数のクリスチャンが戦争に参加したのだと思います。(以下、次号に続く)



地域別とりなし祈禱会

1. 北海道

札幌市 : キリスト公会 札幌グレイス教会 皆川尚一牧師
〒001-0032
札幌市北区北 32 条西 5-3-27
TEL 011-717-1801 毎月第 2、第 4 日曜日午後 2 時

2. 岩手県

水沢市 : ザ・リバイバル・東北祈りの家 高橋範明
〒023-0813 水沢市中町 26 レストラン・プレイズ
TEL 0134-62-3561 毎月第 3 日曜日 午前 7 時 00 分

3. 埼玉県

蕨市 : 蕨とりなし祈禱会 鷺谷世嗣兄
〒335-0003 蕨市南町 3-3-12
TEL0484-42-0967 毎月祝祭日午後 2 時

4. 東京都

東京都内 : 東京中央とりなし祈禱会 皆川尚一牧師
* 会場 早稲田奉仕園セミナーハウス(東京都新宿区西早稲田 2-3-1)
* 連絡先 〒228-0802 神奈川県相模原市上鶴間 6-1-17 皆川尚一牧師
TEL042-747-5703、FAX042-746-2119 毎月第 4 月曜日午後 6 時 30 分 ~ 9 時

東京祈禱会 山浦もと姉
* 会場 キリスト教婦人矯風会館 B - 1(新宿区百人町 2-23-5)
* 連絡先 〒350-0812 埼玉県川越市下小坂 612 主の園 3-25 山浦もと姉
TEL0492-34-7049,FAX0429-31-5552 毎月第 1 月曜日午後 1 時 30 分

5. 神奈川県

横浜市 : シオン・エルサレム教会 平瀬戸恵理牧師
〒220-0044 横浜市西区紅葉が丘 6-2
TEL & FAX 045-243-9135
email: a_motherofnations_sarah@jp-t.ne.jp
毎月第 2or 第 3 水曜日午後 1 時 30 分 ~ 3 時 30 分

聖書とお茶の会 吉田久子姉
〒241-0836 横浜市旭区万騎が原 8-9 吉田方
TEL 045-363-5657
毎週金曜日午後 2 時

相模原市 : キリスト公会相模大野教会 皆川尚一牧師
〒228-0802 相模原市上鶴間 6-1-17
TEL 042-747-5726,747-5703 FAX 746-2119
URL <http://www.Christ-ch.or.jp/>
毎月第 2 木曜日午前 10 時 15 分

6. 長野県

小県郡 : 丸子町キリスト教会 松吉理枝子牧師

〒386-0404 長野県小県郡丸子町上丸子川原 1710 - 1
TEL 02684-2-5264 毎週水曜日午後 7 時 30 分

7. 静岡県

静岡市 : リビングウエイ・チャーチ リッキー・ゴードン師
〒420-0841 静岡市上足洗 4 丁目 6-16-7
TEL 054-248-4058 毎月第 1 日曜日午後 2 時

8. 京都府

京都市 : キョート・プレイヤーグループ シスター・ローズマリー・バス
〒604-8006 京都市中京区河原町三条上ル カトリック会館 3F
TEL 075-781-3330 毎週火曜日午後 7 時 英語の祈禱会

9. 大阪府

寝屋川市:日の出キリスト教会 滝本千歳牧師
〒572-0835 寝屋川市中木田町 26-9
TEL&FAX0720-22-9232 毎月第 3 木曜日午後 2 時

9. 兵庫県

高砂市 : 日本キリスト教団 高砂教会 手束正昭牧師
〒676-0015 高砂市荒井町紙町 1-34
TEL 0794-42-4854 FAX 42-4878 毎月第 4 水曜日午後 9 時 30 分 ~ 12 時

10. 福岡県

福岡市内:福岡新生キリスト教会 竹田 浩牧師
〒811-1344 福岡市南区三宅 3-33-1
TEL 092-561-4232 毎朝午前 5 時 00 分

伊都キリスト教会 友納徳治牧師
〒819-0167 福岡市西区今宿井尻 12-4-1
TEL 092-807-9080、FAX 807-2298 毎月第 3 水曜日 7 時 30 分

11. 大分県

別府市:フルゴスペル イエスキリスト教会 永野誠治牧師
〒874-0933 別府市野口元町 10-1
TEL & FAX 0977-26-3692
e-mail:fg.jesus@poppy.ocn.ne.jp
毎週金曜日午後 7 時 30 分

12. 沖縄県

那覇市 : ホサナキリスト伝道所 喜瀬慎秀牧師
〒900-0031 那覇市若狭 2 丁目 9-5 毎週土曜日午後 6 時
TEL 098 - 868 - 5641

2003年8月号祈りの焦点

(1)継続的課題

1)公明党が連立政権から外され、政界におけるその勢力が著しく減退するように。

又、自民党が見識を取り戻して創価学会に頼らなくなるように祈りましょう。

〔解説〕

* 週刊新潮 5月22日号の「池田大作重病説」によれば、創価学会名誉会長の池田大作（75歳）は、4月30日に心筋梗塞を起こし、東京女子医大病院に運び込まれたということです。そして、池田氏が昭和35年に32歳で創価学会第三代会長に就任した記念日である「創価学会の日」といういわば創価学会の「お正月」の行事にその姿を現さずその日の本部幹部会にも欠席しました。また、全国の会館に流す記念日用のビデオ撮りもできませんでした。これは池田氏の体調に相当な異変が生じたと考えられます。東京女子医大病院では、「池田氏の入院という事実はありません」と否定しています。しかし、ある公明党幹部は「名誉会長がゴールデンウィーク中に入院したのは事実だが、今は退院して静養している」と語ったそうです。

2)カルト集団からの脱会者がキリスト教会に来て救われるように。

〔解説〕

* 今年に入ってから目立った社会活動をしているカルト集団は、世界神霊統一教会です。宗団名をかくして拉致被害者を援護するための募金をJRの駅周辺で盛んに行っています。

* 札幌ではエホバの証人から脱会した人がキリスト教の牧師になってカルト的なやり方で自分の教会を支配しているというケースがあります。

3)天皇陛下が主イエス・キリストに在って救われ、大いに祝福され、その祝福が遍く日本国民の上に及びますように。また、天皇陛下が世界の諸国民の中にあって、祝福の基として用いられますように。そして、国民が天皇陛下を先達として理解し、尊敬して、国際平和のためにつくすように祈りましょう。

〔解説〕

* クリスチャンの中には天皇・皇后両陛下をはじめ皇族の方々が洗礼を受けてクリスチャンになるようにとお祈りしている場合が多いと思われます。しかしながらキリスト教が日本の国家宗教になった時点で初めてそれは考えられることでしょうか。それは変だ、昔は仏教の僧侶となった天皇もおられたのではないかと反論する人もいるでしょう。宗教学者村上重良氏によれば《僧尼は宗教官僚であり、その行動は大宝律令、養老律令の僧尼令によって細かく規制されていた。この規制を貫くものは仏教は国家権力を守るためにあるとする鎮護国家の思想であった》（日本宗教辞典）として「国家仏教」という語を用いています。第二次世界大戦後、昭和天皇は洗礼を受けて公けにキリスト信仰を表明したいと考えられた時期があったようですが、国民の半数以上がクリスチャンになるまでは難しいと断念されたそうです。なぜならば、皇室は伝統的に神道（かながらの道）を奉じて来たからです。皇室典範には何も明記されていませんが、天皇陛下を長とする皇室の人々は神道祭祀を行うことが義務づけられており、他に信教の自由を認められておりません。

4)互いに批判し合い、反目し合ってきたキリスト教会とユダヤ人、カトリック、プロテスタント、そしてペンテコステ、および各教派・各教会の間に、悔い改めと和解が起るように。

〔解説〕

* 大きい動きはありませんが、小さい流れはいくつもあります。事例を二つ挙げますと、カトリック信者山浦玄嗣氏の「ケセン語聖書発刊記念講演会」が7月20日東京でキリスト

新聞社、カトリック新聞社、女子パウロ会、イー・ピックス社の共催で開かれました。

キリスト教系出版社「ミルトス」は、雑誌「みるとす」その他の出版物によりユダヤ人、ユダヤ教への理解を提供しています。

5)キリスト教の文書伝道が進展するように祈りましょう。

〔解説〕

キリスト教関係の新聞社

キリスト新聞、クリスチャン新聞、リバイバル新聞

キリスト教系の出版社

新教出版社、教文館、日本キリスト教団出版局、マルコーシュミッション、生ける水の川、みるとす社等

6)TV・ラジオ・新聞・雑誌関係者たちがおごりと偏った報道や人権無視の取材を止め、神を畏れたフェアな在り方をするように。これらに気付いた人が抗議や訂正の声をあげ、日本の見張り人の役を果たすように祈りましょう。

〔解説〕

* テレビ朝日のキャスター久米宏氏は、ニュース番組の中で日本人が北朝鮮に拉致された問題について、「戦争中、日本は朝鮮人を徴用(ちょうよう)という形で拉致したんだから、あまり強く言えない」という意味の発言をしました。これは戦後派の無知を代表するような発言です。「徴用」とは、徴兵検査に合格しなかった人々などを人手の足りなくなった国内の工場などで働かせるために召集したもので、朝鮮、台湾などの外地人を含む日本人大多数がその対象となりました。上記のような誤解はテレビ朝日が公けに訂正する責任があると思います。

7)日本に亡国の危機をもたらす少子化傾向がくい止められ、神の御心にかなった増子化対策が社会全体の祝福によって実施されるように祈りましょう。

「神は彼らを祝福して言われた、《生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ》」(創世記 1:28)。

〔解説〕

* 小泉内閣は子供を持つ家庭を支援する色々な政策を打ち出してきましたが、その財源を老人の年金から強制的に取り立てたり、消費税を増額したりする方法で作り出そうとしています。「持てる者」から金を取り立てるように方針を転換するように。

(2)時宜的(タイムリーな)課題

1)小泉内閣が神を畏れ、日本の進路を誤ることなく、日本国の独立性を確保すると同時に、国際平和に貢献できるような政治を行うように祈りましょう。

〔解説〕

* 小泉内閣は長期戦略を持たず、政治・経済・外交・軍事などにおいて、米国や中国の顔色を見ながら場当たりの判断で動いているように見えます。日本の平和と繁栄と幸福を守るのは日本しかないということを実感して、わが国の知力と気概を結集した長期国家戦略を急ぎ策定すべきであります。

* 小泉内閣で無理ならば、これに代わる強力な指導者の出現を祈らねばなりません。9月の自民党総裁選においてふさわしい人が代わりに選ばれるように。

2)日本国民全体の中にキリストの福音が広く深く受け入れられて行くように祈りましょう。

〔解説〕

- * リバイバル・ミッション、日本キリスト伝道会、1000万救霊運動、日本民族総福音化運動、聖霊カリスマ刷新運動が用いられますように。
- * 福音が家族・家系を通じて子々孫々に受け継がれて行くために、具体的な方法を実践して行く必要があると思われます。
- * 遠い古代から日本人の中に播かれ、受け継がれて来た福音の種(たね)を芽吹かせるために。

3) 北朝鮮による拉致問題の解決があくまでも外交上の最優先課題とされ、拉致被害者の家族が日本に帰って来るように祈りましょう。

〔解説〕

- * 今のところ延々と話し合いが続いています。かつてクリントンもブッシュも北朝鮮に利権を持って来し、日本の政界、財界人、韓国の政界、財界人たちも同じです。彼らも金正日も話し合いでズルズルと延命を計っているのです。だから、「拉致はテロだ」と歯切れよく断定して国権を発動することができません。わたしたちの愛する同胞が北朝鮮の鉄のかせから解放されるように更に熱く祈りましょう。

〔参考文献〕

-) 北朝鮮利権の真相 別冊宝島 Real; 049 宝島社刊 1200円+税
-) 桜井よしこ 「論戦2003」 ダイヤモンド社刊 1400円+税

4) 日本における教育が健全な方向に導かれるように。

〔解説〕

- * 国際人として生きるだけの資質のある人が英語を身につけるようにするというのが文部省の基本方針であるといわれます。
- * しかしながら、毎日のテレビ放送ではむやみやたらと英会話が流されており、崩れた日本語が芸能人たちだけでなく、アナウンサーによって語られています。正しい、美しい日本語が回復できるように学校教育においても出版・放送メディアにおいても配慮されるように祈りましょう。
- * 高校教科書の中で、家庭科教科書の約半数に「ジェンダーに縛られない社会を築くことが望ましい」との思想が記述されています。これは所謂「ジェンダー・フリー」(男らしさ、女らしさからの解放)という新左翼思想に基づくもので、家庭崩壊を招く恐れがあります。教科書からこの思想が排除されるように。(参考:「正論」6月号 p.240「子供たちに家族解体を教え込む教科書の恐怖」長尾誠夫)。又、聖書の人間観が尊重されるように。

5) 日本が日本独自の外交・防衛のビジョンを持つことが出来るように祈りましょう。

〔解説〕

- * 日本が台湾との同盟関係を視野に入れたアジアにおける協力関係を求めて行くように。
- * 盛岡市の新渡戸稲造顕彰会では、10月18日に市内で開催する新渡戸稲造没後70周年記念行事として台湾の前総統李登輝氏を講師として招聘する意向であると発表しました(サンケイ新聞5月15日号)。外務省が李登輝氏にビザを発給するように祈りましょう。

6) 「日本が、過度にアメリカ型に傾斜してしまった経済システムのあり方を見直して、日本の個性、使命、賜物を生かし、未来を展望できるような資本主義経済のあり方を見出していくことができるように。そのために、特に、経済界の指導者たちがクリスチャンとなって、神が日本の国に抱いておられる将来と希望、そして固有の賜物につき、発見と洞察が与えられますように。ビジネスマン伝道が特に祝福されるように。」

(解説)

1 アメリカ型に傾斜した経済システムというのは、資本市場（株式や社債、債券等、企業や国、地方公共団体が資金を調達するための証券市場のこと）における取引の保護、もしくは投資家、（株主や債権者）の利益を過剰に重視して、市場自体があたかも独立王国のように振る舞い、実体経済（物やサービスといった実体的な裏づけの伴う財の取引）から大きく逸脱することを許容するシステムである、ということがいえます。確かに、今日のような高度な経済社会の金融ニーズを満たすには、高度に発達した市場システムがなければならず、そうである以上、ある程度は、市場自体を政府や外部権力から独立した存在として、保護してやらねばなりません。しかし、あくまで、市場というのは道具・手段であり、国民経済の福祉の向上に役立つものでなければならぬはずで、貪欲な市場の論理が行き過ぎるときには、国民経済の要請に基づき、政府は積極的に介入し、市場を外部からチェックする役割を果たさなければなりません。場合によっては、市場においてあくまで個の利益のみを追求する貪欲なプレーヤーの利益を犠牲にしてでも、国民経済の利益（公益）を守らなければなりません。要は、そのような規制が、ルールに基づき、きちんと法に基づいたものとしてなされることがあれば良いのです。

2 神様が日本に与えられた賜物は、優れた「ものづくり」の技術であり、また勤勉で、謙抑的な道徳性だと思います。日本人の多くにとって、仕事に求める第一の価値は、生きがい、やりがい、即ち社会・公共のために自分の仕事が役立っている、という実感だそうです。これは、外国で、同じ質問の回答が、あくまで金銭の獲得であったり、出世であったりする労働観とは、著しい対照をなしており、外国の研究者が改めて日本社会の真の強さに驚嘆する点だということです。WEDGE2003年7月号には、アメリカにおいて真に成長している企業の大部分は、皮肉なことに、日本が忘れかけている「日本型経営」を愚直に実践している企業であり、市場の論理よりも、働く者（従業員）の論理、国家・公共の論理を優先している企業だ、というレポートが報告されています（「リストラ経営の信奉者よ、強い米国企業は社員重視だ」）。このような目に見えない「公共性の価値観」こそ、日本が他国の追随を許さない、強さの源泉だ、ということ、外国の研究者によって主張されているのです。日本人自身が、そのことに早く目覚めて、もう一度、国づくりの基本を考え直すことが大切です。決して、市場の論理と利益を代弁する一部のメディアの過剰な日本否定的・自虐的な報道に惑わされないようにしたいものです。

7)イラクの戦後回復が民主的な政府によって国連指導の下に行われるように祈りましょう。

〔解説〕

- * 日本緊急援助隊のリーダーとしてバグダット入りしているケン・ジョセフ氏によれば米 CNS 通信が「フセイン後の新政権は西側的な民主主義を目指すのか、それとも厳格なイスラム法を採用するシーア派支配の体制に向かうのか予断を許さない」と報じたことを伝えています。信教の自由のためには民主政治体制が望ましいと思われまます。
- * ジョセフさんは、クリスチャンにぜひ現地にボランティアに来て欲しいと呼びかけています。（以上、「クリスチャン新聞」6月1日号記事）

8)イスラエルの平和のために祈りましょう。

「見よ、イスラエルを守る者は、まどろむこともなく、眠ることもない」（詩篇 121:4）

〔解説〕

- * 米国が提案したロードマップは、第一歩としてアラファトが退いて代わりにアブ・メザンが首相に就任し、テロを根絶し、イスラエルを承認するというものです。これが連日の自爆テロによって不可能になっています。
- * マスコミは、パレスチナ側のイスラエルに対する自爆テロその他の戦闘行為をほとんどわず

かに報道するだけで、ただ、イスラエルの反撃だけを不当な攻撃として報じ、ありもしない「ジェニン大虐殺（ホロコースト）」などを大々的に報じています。このマスコミの不公正な報道姿勢が正されるように祈りましょう。

* アラブ人が自爆テロを完全に止めてヨルダン国籍を持つパレスチナ住民はヨルダンに引き取られ、中東に和平がもたらされるように祈りましょう。

《会計報告》(2003年4月1日～2003年5月31日)

(単位 = 円)

収 入	金 額	支 出	金 額
献 金	115,000	交 通 費	0
		印 刷 費	2,619
		資 料 費	18,580
		郵 送 費	41,350
		事 務 費	0
		振替手数料	620
		電 話 料	14,929
小 計	115,000	小 計	78,098
前月繰越	76,821	翌月繰越	113,723
国内活動基金 収入	0	国内活動基金 支出	0
前月繰越金	15,700	翌月繰越金	15,700
国際会議参加基金 収入	0	国際会議参加基金 支出	0
前月繰越金	35,474	翌月繰越金	35,474
合 計	242,995	合 計	242,995

【献金者芳名】(順不同)

高砂教会(兵庫)	3回	高田和彦(東京)	1回
相模大野教会(神奈川)	2回	佐藤節代(神奈川)	1回
札幌グレイス教会(北海道)	2回	平瀬戸恵理(神奈川)	1回

【編集後記】

- * ニュースレター 8月号をお届けします。
- * 今回のトップレポートも「日本宣教論序説」(第7回)「第5波 欧米キリスト教の渡来」(1859年～1945年)の続きです。初めの予定では、日本宣教論序説を4回で終わるようにしたいと考えていましたが委員会では最後まで存分に書いて欲しいと望まれたので思い切って続けることにしました。
- * 8月15日の終戦記念日を前にして、1945年までの日本の歴史とキリスト教界の歩みを書くことになったのは不思議な感じがします。私は1940年(昭和15年)にクリスチャンになり、戦争中いろいろな形で迫害を受けました。戦争中の日本の状況やキリスト教界の歩みなどを実際に目撃して来た生き証人たちの一人として書いておきたいことを書きました。限られた紙面なので、もっと詳しく述べたいと思うこともかなり省略

しました。それで「余り簡単でわからない」とか「軍国主義的で受け入れられない」と思う人もいるでしょう。そういう方々のご遠慮なく質問して下さい。

- * 1943年(昭和18年)の大東亜会議について私の手許にいくつかの資料があります。
 - (1) 「大東亜会議演説集」大東亜省発行
これは公文書です。日本文、中国文、英文(日本語訳文付)
 - (2) 「週刊朝日」学徒出陣号 昭和18年11月21日号 朝日新聞社刊
 - (3) 深田裕介著「黎明の世紀」- 大東亜会議とその主役たち - 文芸春秋刊
これを読むとアジア各国代表が皆第一級の人物たちであることが分かります。

(ヨハネ 皆川尚一記)

《次回日本のとりなし委員会予告》

日時：2003年9月29日(月)12時

場所：キリスト公会 相模大野教会

